

清流ブルーのカクテルで、 岐阜の夜に乾杯

BAR NICE
オーナーバーテンダー
森部俊之さん

「清流・長良川」をイメージした『長良川カクテル Clear Stream 清流』が誕生しました。長良川の上流・中流・下流と3パターン作られたカクテルには、各々その流域の「長良川らしさ」が映し出されています。
開発したのは（一社）日本バーテンダー協会 岐阜県本部長 森部俊之さん。
このカクテルの誕生までの想いを、お伺いしました。



長良川は、日本三大清流のひとつといわれ、1985年に環境庁（現・環境省）の「名水百選」に選ばれるなど、水質のよさを誇ります。

「このカクテルは、清流」という冠がふさわしい『長良川』に、私からの精一杯の敬意を込めて作りました」

そう語るのは、岐阜市御浪町にて昭和61年より「BAR NICE」を営み、現在一般社団法人日本バーテンダー協会岐阜県本部長を務める森部俊之さん 60歳。

故郷岐阜の活性化に役立ちたい

岐阜に生まれ育ち、高校卒業後すぐに柳ヶ瀬商店街の婦人服販売会社に就職。その後、いつしか柳ヶ瀬に自分のブティックを持つようになりました。

しかしある時「自分の技術でつくったものを売ることが出来る仕事

がしたい」と一念発起し、飲食の道へ。レストランバーの名店で修業を積み、昭和61年 御浪町に「BAR NICE」を開店。今年、30年目を迎えました。アパレル時代から通算して約40年、ずっと柳ヶ瀬を見つめ続け、これからの柳ヶ瀬のこと、故郷岐阜のことなどにも想いをめぐらせています。

森部さんはこれまでも、岐阜を、柳ヶ瀬を盛り上げようと、斬新な企画を次々と打ち出してきました。なかでも、特別価格でカクテルを楽しむことができる「岐阜カクテルの日」企画は毎年好評で、参加店舗もずいぶん増えていきました。

今回のカクテル開発は、当所からの提案がきっかけでした。

当所では、かねてより「観光振興」を地方創生の起爆剤と位置づけ、「清流長良川に育まれた長良川流域文化

ているなかで、このカクテルには、私の『岐阜を想う気持ち』を込めてみたいと思いました」

岐阜への想い

心に浮かんだのはやはり、長良川でした。

「辿った記憶の多くのシーンに、青く澄んだ長良川の風景が思い浮かびました。幼い頃は毎日のように川で遊んでいましたし、大人になってからも長良川にまつわる思い出は尽きることがありません。岐阜には同じ想いの方もきっと多いのではないのでしょうか」

森部さんはそう語りながら、シェーカーを振り、カクテルを丁寧にグラスに注ぎます。

その色はまさに、清流ブルー。多くの岐阜市民の「心の原風景」が、グラスのなかに表現されました。

そして、岐阜市だけではなく岐阜県内の観光振興の一助になればと、大目ヶ岳を源に濃尾平野を流れる「上流」や「下流」の流れも、グラスに映してみたいと考えました。

こうして3つの「長良川カクテル」が誕生しました。

森部さんは今、カクテルが「広く浸透する」ことを目指し、多くの店がこのカクテルを同じくオリエティで提供できるようにと考えています。

「最初、カクテルのベースを選ぶ際、岐阜市にゆかりのあるものを使いたいと、いろいろ考えました。思い浮かんだのが、岐阜市と姉妹都市であるブラジルカンピナス市で多く飲まれている『カシヤッサ』というサトウキビから作られる蒸留酒でしたが、このお酒は世界で2番目に多く消費されている蒸留酒であるにもかかわらず日本では取扱うBARが少ないため、同じサトウキビが原料の『ラム酒』をベースに選びました。また、副材料も、岐阜市内のどこのお店でも同じように手に入れることのできるものをあえて揃えました」

そんな想いに賛同し、提供店は着実に広がっています。

カクテルの仕上げには、グラスの縁に、小さな鮎のモチーフが飾られます。昼間は、長良川に癒され夜は、グラスの中の長良川を楽しむそんな人が増えますように……とそっと飾ります。

『長良川カクテル Clear Stream ～清流～』



Clear stream
[lower 下流]

濃尾平野をゆったりと流れる川の姿をイメージし、少し濃いブルーに仕上げ、おだやかに深い水の流れを表しました。



Clear stream
[middle 中流]

透明感のあるゆるやかな川の流れをイメージしました。グラスの底のブルーが、澄んだ川底を印象的にしています。



Clear stream
[upper 上流]

雪解け水を集めて流れる源流の姿をイメージしました。速い流れを白濁で表現しています。

にもとづく『岐阜ブランド』の確立」をキーワードにさまざまな事業に取り組んでいます。そのなかで今回、「同様のテーマで『何か新たな『夜の岐阜の観光振興』の一策を提案いただけないか』と、森部さんをお願いしました。

すると「以前から、岐阜の活性化に何か役に立ちたいと考えていたの

で、よい機会です」と、二つ返事で応じてくださいました。

森部さんには、バーテンダーとして常に大切に行っているものが2つあります。ひとつは「確かな技術」。もうひとつは、お客様との「会話」。

今回のカクテルのイメージも、そんなお客様との会話のなかから生まれました。

「多くのお客様が、それぞれの『故郷』について語ってくださいます。一日を終えたひとときが、郷愁を誘うのかもしれない。そんな話をし